

持続可能な学友会を目指して

信毎 やンジャ

SDGs 17の目標

1 貧困をなくそう
10 人や国の不平等をなくそう
2 質の高い教育をみんなに
11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を
12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに
13 気候変動に具体的な対策を

飯田市飯田東中学校の学友会（生徒会）が本年度、「持続可能な学友会」をテーマに掲げ、活動の目的や意味を見直している。生徒数が1989年度の約500人から本年度は196人に減り、長年取り組んできた活動の継続が課題になっていた。SDGs（持続可能な開発目標）の観点を意識することで、地域のまちづくりに目を向けることが、学友会活動の意味付けや地域での学校の存在意義につながると実感している。

◇ 「持続可能な学友会」というテーマは、将来、生徒数がさらに減っても学校がなくならないようにしたいと、学友会長で3年のさん(15)が中心になって掲げた。さんは昨年度の会長選挙中、当時の3年生に、生徒数減少の中で学友会活動が続けられるのか質問された。

◇ 当選後、生徒会顧問の中野晃宏教諭(1)から、地球を未来に残すための目標であるSDGsの「持続可能性」という考え方が、目指す学友会の姿につながるのではと投げ掛けられた。佐々木さんは「SDGsと結び付けることで、地域の持続やまちづくりに学校が果たす役割が明確になると思った」と振り返る。

学年全体で考えようと、5月、総合的な学習の時間に3年生(65人)が委員会単位で5、6人ずつ12グループに分かれて議論を開始。学友会活動の現状や、見直しが必要な点を話し合った。生徒は今後の目標や具体的な活動案を考えつつ、地域のまちづくりに目を向けるようになった。

同校は、飯田市中心部にある市のシンボル「りんご並木」の手入



飯田東中学校（飯田市） 生徒減る中「続けられる？」問い



11 住み続けられるまちづくりを
15 陸の豊かさも守ろう
17 パートナースHIPで目標を達成しよう

学友

会活動 地域へ視野広げて

れを、植樹が始まった1993(昭和28)年から担う。しかし、生徒数の減少で1人当たりの負担が増え、予定時間で作業が終わらなくなっている。並木に関する同校の活動を中心に担う学友会の並木委員会のグループは、他の学校や地域住民らに活動に関わってもらい、並木を地域全体で守る形にしたいと考えた。現在も近隣の小学校や住民と摘果・収穫などの作業を行っているが、さらに拡充したい意向だ。

生徒が月1回、学区内を清掃する「町内清掃」を考えるグループでも、同校生徒のみで行う活動を、将来的に地域住民や周辺の小学校

の児童と一緒にすることを目標にした。学友会女子副会長のさん(15)は「若い自分たちが率先して活動すれば、街をきれいにしようという意識が高まる。川などに流れ出るゴミを減らすことにもなり、SDGsの達成にもつながる」と話す。

同校では東日本大震災の被災地支援のため、全校生徒に呼び掛けてアルミ缶などの資源物を回収し、換金して寄付している。回収を担当する環境・ボランティア委員会は、集まった資源量と全校生徒の活動参加率を指標に支援の貢献度を計ってきた。しかし、呼び掛けても参加率は100%になら

ず、「強制的だ」という意見もあった。同委員会のグループは、被災地支援という目的を改めて自覚する必要があると考え、寄付金を送っている認定NPO法人「桜ライン311」(岩手県陸前高田市)の講演を発案。3年生は7月6日、オンラインで復興の現状や寄付金の使い道を聞いた。副委員長のさん(15)は「自分たちの活動は被災地の持続可能性につな

がる。聞いたことを下級生に伝えたい」と活動の在り方を考える手応えを口にした。各委員会は今後、11月までに目標達成に向けて活動を進める。9月の文化祭では、全校で持続可能な学友会について話し合う機会を設ける予定だ。さんは「自分たちの代で全てを見直すことはできないが、持続可能性という観点で、これからも考え続けてほしい」と話している。



被災地支援から学ぶ

オンラインで桜ライン311の講演を聞き、地域で活動する際に大事にしていることなどの質問を考える飯田東中学校の3年生＝7月6日、飯田市の同校

「まちづくり共に」住民や行政から期待

生徒が地域での学校の役割を考え、地域のまちづくりにも目を向けるようになったことに住民や行政からは期待の声が上がる。りんと並木の手入れは、地域の自治組織、経済団体などをつくる「飯田東中学校りんご並木後援会」(事務局・飯田市教育委員会)が、除草や摘果作業をシルバー人材センターに委託するなどして支援している。後援会会長のさん(68)は「並木をどう維持していくか、学校、住民、行政で一緒に考えなければいけない時期に来ている」とする。さんは並木がある橋南地区の住民らでつくる橋南まちづくり委員会の会長も務める。「中学生が地元に関心を持ってくれることはうれしい。持続可能な形で一緒にできることを探りたい」と話した。

町内清掃について考えた生徒は、話し合ったことをまちづくり委員会の住民に伝えた際、地域で行う美化活動に参加してほしいと言われた。11月の美化活動には全校で参加する方向で計画している。さんは「協力して地域をきれいにしたという経験を、学友会で行う町内清掃の今後の在り方を考えることに生かしたい」と話す。飯田市商業・市街地活性課中心市街地活性化係の係長(41)は「まちづくりには多様な性が必要。地元の中学生の行動は、たとえ小さなことでも、将来、街を良くすることにつながる」と期待した。

5 ジェンダー平等を
実現しよう

6 安全な水とトイレ
を世界中に

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

8 働きがいも
経済成長も

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

14 海の豊かさを
守ろう

15 陸の豊かさも
守ろう

16 平和と公正を
すべての人に

17 パートナースHIPで
目標を達成しよう

SDGs 誰一人取り残されることなく、この地球で幸せに暮らし続けるにはどうすればよいかを定めた国際的な目標。英語の Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略。17の目標と、目標達成への具体策を示した169のターゲットで構成する。2015年に国連で採択され、30年までの達成を目指している。法的拘束力はないが、国連に加盟する193カ国全てが取り組む必要があるとしている。